



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ベニトンボ 学名: *Trithemis aurora*

♂ (雄)



♀ (雌)

広島県では2022年に初めて報告されたトンボです。南方系のトンボで、日本では鹿児島県で最初に記録されていましたが、その後沖縄県でも確認され、九州、四国と分布を広げて、今では山陽、関西と少しずつ分布を拡大しています。

名前のお通り、成熟した雄は、アカトンボなどの赤い色をした他のトンボと違い、やや紫色の蛍光を放ち、翅脈も同じ色をしているので、見慣れれば遠目でも間違えることはないでしょう。成熟する前と雌は黄色と黒で、他のトンボとよく似ていますが、胸のm字型の黒い模様があるので、近くで見ることが出来れば区別は簡単です。

ため池周辺の林のまわりや土手の草地などで生活し、成熟した雄は水面近くで縄張りをつくり、近づいた他のトンボを追い払うなど、活発に活動します。

広島県では、県南部から次第に分布を拡大し、現在は世羅台地まで見られるようです。昨年生息が確認された福山市のため池では、今年も6月上旬には未熟個体が確認されていて、もう定着していると考えられます。今後、庄原市内や三次市内でも見られるようになる可能性があります。展示標本は、今年度新たに追加されたものです。

【解説：秋山美文(比和自然科学博物館客員研究員)】

